



高幡教会創立五十周年記念ポスター(橋本のなさん作)

あゆみ

2019年
復活祭号

創立50周年

発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463
FAX042(592)2464

そのためにイエスの愛にとどまりましょう。
私たちは生きて石である。

主任司祭 ロールド・ザビエル

皆さん、イエス・キリストのご復活おめでとうございます。二〇一九年の復活祭からカトリック高幡教会の創立五十周年のお祝いが始まります。五十周年は金祝であり、大きな標石(マイルストーン)です。私たちはその一年間をじっくりと神に感謝を捧げ、私たちの信仰を深めて、これからの宣教活動の企画を建てていく良い機会だと思いません。ですから皆さん、この一年間を大事にして色々な行事に参加しましょう。

「私たちは生きて石である。そのためにイエスの愛にとどまりましょう」という言葉がこの一年間の信仰の道しるべになります。聖ペトロは信者の皆さんの心に勇気と情熱の種を植えて、洗礼によって受けました。新しい命について説明していただきます。その話は今日も私たちに同じ意味で自分の信仰を新たにすることを呼びかけています。

「生きて石」という言葉は、高幡教会共同体のあり方を投げかけています。なく、そこに集う信者の姿であり、愛に包まれた共同体の姿です。そして、その共同体の頭はイエス・キリストです。

聖書の中で石のイメージは神の愛の礎に建てられています。神は全くお変わりになりません。イ

エス・キリストはその変わらない慈愛を皆に表し、ご自分の教会を弱い石であるペトロの上に建てられたのです。教会をこの世界の中にイエスが再び来られるまで憐れみと救いの道具としてくださいました。マタイの福音の中で「エクレシア」という言葉は教会と訳され、その意味は共同体となっています。そういうことから教会の五十周年のお祝いは信者の皆さんのお祝いです。

ここで三つのポイントを目の前に置いて行きましょう。

一致を生きる共同体：洗礼によって皆同じ聖霊の息吹に与っているの

で、信者は皆平等です。そして、同じキリストの御からだに属しているの、全体的な成長を考えなければなりません。

信仰を活かす共同体：信仰は生きていくものです。それは祈り、黙想、秘跡を祝うことによつてできます。毎週の主日のミサに与り、互いのため祈りを捧げて信仰を分かち合うことができず。信仰はことば、思いと行いによつて生かして行きましよう。

福音の喜びを伝える共同体：キリストの福音は自分のためだけではあり

ません。まずイエスの御ことばを深く味わい、理解したことを周りの人々に伝える使命が与えられています。それを喜んでやりましよう。その二つのことができるのはイエ

スの愛にとどまることによつてしかありません。ヨハネの福音の中のおの木のたとえでイエスはこう言われます。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながつておれば、わたしも人につながつておれば、わたしの豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネ十五・五)

私たちは自分の命に加えて洗礼の恵みによる新たな命をいただいています。その新しい命を活かすために、洗礼の恵みを生きること、イエスの愛につながらず生き方をすることによつてこれからの豊かな実を結び続けていくものです。私たちがぶどうの木であるイエスの弟子であれば、その木の枝のように生きるための命の樹液をイエスからいただくはずで

す。そのためいつもイエスとながつて、イエスとともにイエスの愛のうちにとどまりましよう。

生きた石とぶどうの木の枝、いずれも命の源である神の命で満たされているので、意味があります。ですから、私たちの共同体にその命を忠実にくださった神に感謝いたしましよう。そして、この一年間教会の玄関に着いた時「神を愛するため着いた」と思い、同じ玄関から出る時「世界の皆を愛するために行きました」という意識を強めて行きましよう。神が私たちのこの一年間のあゆみを導いてくださいますように。✠

信徒会だより

信徒会委員長

一月二十七日(日)の信徒総会を経て、二月より二〇一九年度の信徒委員会の活動が開始しました。新しい委員が多く、高幡教会の信徒のみな様とともに気持ちを新たに取り組み始めました。二月、三月の主な内容です。

- 一・二月三日(日) 信徒委員会
- 二・二月十日(日) 拡大委員会
(ザビエル神父のローマ出張、創立五十周年記念事業、さつき祭、菊地大司教からの課題等について)
- 三・二月十七日(日) 姉妹教会交流会礼拝

- (日本ホーリネス教団由木教会、日本基督教団永山教会、カトリック高幡教会・開催教会)
- 四・二月二十四日(日)より「堅信講座」が始まる(六月二十三日(日)「初聖体・堅信式」へ)
- 五・三月三日(日) 信徒委員会
- 六・三月六日(水) 灰の水曜日ミサ

七・三月十日(日) 拡大委員会
(エレベーター献金、
ロワゼール神父様叙階六十周年の
お祝い、
堅信式講座、
五十周年記念、
さつき祭、

菊地大司教からの課題等について)
八・三月二十四日(日) 黙想会・ゆるし
の秘跡
(瀬戸高志神父、飯田徹神父)

九・施設より
教会聖堂上部の雨もれによる屋根修

復工事、教会周り倒木の危険樹木の対策
十・育成より
青年層減少による教会学校運営に、大

人層の協力が必要と考える

十一・信徒委員会の日程変更

(一) 八月十一日←八月四日
(二) 十月十三日←十月六日

十二・信徒総会の日程変更
二〇二〇年一月二十六日←一月十九日



二月十一日ルルドの記念ミサが
執り行われました

創立五十周年 記念行事に向けて

ザビエル神父様と私たち五名の創立五十周年プロジェクトチームは信徒委員会の下部組織として二〇一八年九月から活動をスタートしました。

高幡教会の創立は、一九七〇年四月五日に白柳大司教様(当時)をお迎えしてメルセス会聖堂献堂式が挙行され、十四世帯四十五名での教会名簿が発行された日となります。したがって高幡教会の創立五十周年は二〇二〇年四月五日です。

しかし、ザビエル神父様や二〇一八年信徒委員会のご意向もあり、創立五十周年を単に一日だけの記念ミサや祝賀会で終わらせるのではなく、プロジェクトチームが二〇一九年復活祭から二〇二〇年さつき祭まで一年間の記念行事を計画し、それを教会行事として信徒委員会が中心となって推進していつてはどうかということになりました。少なくとも三ヶ月に一回程度は行事を推進していきたいと考え、下記のような計画を立てました。

一連の行事を貫くテーマとしてザビエル神父様の提案を基に、聖ペテロの書簡から「私たちは生きた石である。そのためイエスの愛にとどまりましょう」を選びました。

テーマについての詳しい説明はザビエル神父様の記述に委ねますが、その趣旨は高幡教会がこれまでの五十年間、多摩西地域に於いて「生きた石」として福音宣教を重ね、豊かな実りをいただいていた恵みに感謝し、これからもイエスの愛にとどまり、希望を持って福音の喜びを伝えていくというものです。

創立五十周年記念行事は高幡教会の全信徒を挙げてお祝いしたいと願っています。そのためには通常行事に加えての様々な取り組みに皆様のご協力をいただかなければなりません。その際はどうぞ積極的に支えていただきますようお願いいたします。

◆行事計画◆

二〇一九年は

(一) 六月二十三日に森一弘司教様による
堅信式の実施

(二) 九月十五日にセミナーの開催

(三) 十月二〇日の秋祭りに記念コンサートを実施

(四) 高幡教会の歩みに関する座談会等の開催

二〇二〇年は、

(一) 五月にさつき祭を兼ねて菊地功大司教様と歴代司祭による五十周年記念ミサと祝賀会。そして記念誌の発行、記念品配布等を計画しています。

黙想会・共同回心式

編集部

四旬節第三主日の三月二十四日、レズンプトール会の瀬戸高志神父様をお招きして、黙想会と共同回心式が執り行われました。神父様司式のミサの後、講話、共同回心式の順で行われました。共同回心式には今年もサレジオ会の飯田徹神父様が来てくださいました。

「キリストの招きを生きる―四旬節の心とカリタス。私たちは一つの家族、すべての命に慈しみを―のテーマで行われた講話は、最初に「四旬節 愛の祈り」を捧げてからスタートしました。

「四旬節は、神様の慈しみに感謝しながら復活祭を準備し祝うために設けられています。また、洗礼志願者のための節であります。洗礼を受けた者ならば、洗礼を記念する神様の業を通して神秘に立ち向かう節です」と話し、「教会の本質的な使命は、隣人に愛を告げ知らせ証しすること、愛を祝う教会はミサを捧げる場所で主を祝う場所であること、互いに愛し合うことです。十字架のイエスの御言葉を一つ一つ黙想しながら四旬節を過ごしてください」と話されました。四旬節を迎えるよい準備ができた一日でした。

教会行事(4/28~6/23)

- ・ 4月28日 復活祭第2主日 10:00 ミサ1回
- ・ 5月5日 復活祭第3主日 10:00 ミサ1回
- ・ 5月12日 復活祭第4主日 10:00 ミサ1回
信徒委員会 12:00
- ・ 5月19日 復活祭第5主日 10:00 ミサ1回
さつき祭 司式:ロワゼール神父様
(司祭叙階60周年お祝い)
- ・ 5月26日 復活祭第6主日 10:00 ミサ1回
- ・ 6月2日 主の昇天
12:30 拡大委員会(さつき祭反省会)
- ・ 6月9日 聖霊降臨の主日 信徒委員会 12:00
- ・ 6月16日 三位一体の主日
大掃除(9:00 ミサ一回)、
堅信講座(12:00~13:00)
- ・ 6月23日 キリストの聖体 初聖体・堅信式ミサ
10:00 一回 司式:森司教様
ミサ後、祝賀会

カトリック高幡教会創立50周年の祈り

天の父である神よ、
カトリック高幡教会共同体の信仰を五十年間導いてくださったことに感謝を捧げます。私たちの信仰を希望と愛で育ててくれた司祭、修道者、信徒の皆さんにも感謝いたします。

創立50周年の喜びを一年間通して祝う私たちがあなたの慈しみと愛で満たし、力づけてください。

救い主イエス・キリストは世界にあなたの愛を示す教会をお定めになり、弱い人間をその教会を建てる石としてくださいました。私たちが教会の生きている石であることを自覚し、福音の喜びを伝えることができるよう導いてください。

これからもあなたの愛にとどまることにより、私たち、一人一人が自分の使命を知り、多くの人をあなたの元へ導く勇気の賜物をお与えください。

カトリック高幡教会の守護者であるさつきの后聖マリアよ、あなたの母なる大きな愛で私たちを見守り、お祈りください。アーメン。

◆高幡教会ホームページのURL◆

<http://www.cctakahata.jp>

◆スマホからのQRコード読み取りはこちら◆



<編集後記>

ご復活おめでとうございます。今年のご復活は高幡教会創立五十周年のスタートです。改めて「信徒にとって宣教とは」と考える一年の始まりと思いました。